

2015年7月30日

各位

本店所在地 東京都千代田区麹町2-4  
会社名 そーせいグループ株式会社  
(コード番号 4565 東証マザーズ)  
代表者 代表執行役社長 CEO 田村 眞一  
問い合わせ先 執行役副社長 CFO 虎見 英俊  
電話番号 03-5210-3290(代表)

## 子会社 Heptares 社の新規抗 GPCR 抗体医薬品開発プログラムの 開始に関するお知らせ

当社子会社 Heptares Therapeutics (ヘプタレス・セラピューティクス、以下、「Heptares 社」)は、2013年2月に同社が MorphoSys AG (以下、「モルフォシス社」)と結んだ提携により生み出された抗体につき、オプション権を行使し、自社による抗体開発プログラムを開始しましたので、お知らせいたします。本開発プログラムはモルフォシス社の Ylanthia®抗体ライブラリをもとに、Heptares 社が提案する GPCR ターゲットおよび作製した StaR 抗原に基づき、新規抗体開発候補品を探索するものです。

開発および商業化に関する経済条件は両社が交わしている契約に基づいており、Heptares 社はモルフォシス社にオプション行使のための一時金および研究開発資金を支払い、さらに本開発プログラムにおいて探索された治療用抗体の対価としてマイルストーンおよび販売後のロイヤリティを支払うこととなります。

2013年2月に Heptares 社とモルフォシス社は、GPCR をターゲットとする治療用抗体の開発を目指すべく共同研究開発契約を締結いたしました。この契約に基づき Heptares 社は、モルフォシス社が指定した疾患に関わる GPCR を提供します。モルフォシス社はその GPCR を基に、独自の Ylanthia®ライブラリを用いて特定の機能的抗 GPCR 抗体を作製・開発します。一方、同契約に基づき Heptares 社は、同社が提供した GPCR に対してモルフォシス社が同定した治療用抗体を開発・商業化するオプション権を保持しており、この度本オプション権を行使する決定を致しました。

当社チーフ R&D オフィサーおよび Heptares 社の CEO のマルコム・ウィアーは次のように述べております。

「当社の GPCR 構造ベース創薬の経験やノウハウにモルフォシス社の抗体創薬力を加えることで、抗 GPCR 抗体創薬を可能にする強力なアライアンスが成立します。

この提携において進捗を成し遂げたことや、今後治療用抗体をパイプラインに追加できることを大変嬉しく思っております。本開発プログラムの開始は、StaR®技術が低分子医薬品のみならずバイオ医薬品など広範に適用可能であることや、それによる自社パイプラインや提携プログラムの強化の可能性を意味しています。」

モルフォシス社 CSO のマルリーズ・スプロルは次のように述べています。

「モルフォシス社の Ylanthia®基盤技術は GPCR ターゲット分野において徐々に足掛かりを得ています。当社は既に複数のプロジェクトを通じて、機能的な抗 GPCR 抗体を生成すること

ができました。Heptares 社との提携において生み出された初の抗体開発プログラムの進捗を見守って行きたいと思っています。」

GPCR は広範な生物学的機能を制御する細胞膜のタンパク質であり、医薬品開発において最も大きな創薬ターゲットのクラスに位置付けられています。しかし、従来技術では GPCR を抗体開発の対象として利用することは困難であったため、これまでに GPCR を標的とした抗体医薬品として承認されているものは 1 つだけであり（成人 T 細胞白血病リンパ腫治療薬）、高品質で信頼性の高い GPCR 抗原へのアクセスは従来の技術ではきわめて困難であることが伺えます。

Heptares 社の StaR<sup>®</sup>技術は、正確に折り畳まれた機能的タンパク質を細胞膜から取り出し精製することを可能にします。StaR<sup>®</sup>タンパク質は薬理的に活性または不活性の状態 GPCR の抗原エピトープ（抗体の認識部位）を保存することができ、病態との関連性の高い状態の受容体に対する、機能的な抗体の作製を可能にします。

モルフォシス社の Ylanthia<sup>®</sup>抗体ライブラリは 1000 億の完全ヒト抗体で構築され、医薬品業界において最大規模の抗体 Fab ライブラリです。Ylanthia<sup>®</sup>の遺伝的構成物は前例がない程の抗体の構造多様性を生み出し、開発の実現性を高めます。当該ライブラリの多様性は特異なエピトープへの対応を可能にし、今まで困難であった標的分子に対する抗体の作製が実現します。

なお、本件による当期連結業績への影響はありません。

#### <ご参考>

#### ソーせいグループについて

ソーせいグループはグローバルに医薬品開発に取り組む日本発バイオ医薬品企業です。ソーせいグループのビジネスモデルの根幹にあるのは、新規・差別化可能な開発品および基盤技術の探索、それらの非臨床・臨床開発の支援、開発・販売提携等を通じて世界中の患者さんに新たな医薬品を届けることです。

詳細については、[www.losei.com](http://www.losei.com) をご覧ください。

#### Heptares 社について

Heptares 社は、広範囲のヒト疾患に関連する 375 個の受容体のスーパーファミリーである G タンパク質共役受容体 (GPCR) を標的とした創薬を行う医薬品開発企業です。同社独自の構造ベースドラッグデザイン技術を利用することにより、臨床的な有用性は証明されているものの、これまで創薬が困難であった GPCR を標的とした医薬品の創出が可能となります。このアプローチを使用して、同社はアルツハイマー病、統合失調症、ADHD、偏頭痛、依存症、代謝疾患等の治療法を革新する可能性を有する、画期的なパイプラインを構築しております。なお、Heptares 社は既に AstraZeneca 社、MedImmune 社、Cubist 社、MorphoSys 社、武田薬品工業株式会社、等と提携しております。

詳細については、[www.heptares.com](http://www.heptares.com) と [www.losei.com](http://www.losei.com) をご覧ください。

HEPTARES は、EU、スイス、米国と日本における登録商標です。

StaR<sup>®</sup>は、EU と日本における登録商標です。

#### モルフォシス社について

モルフォシス社は、医薬品業界において最も優れた HuCAL 抗体ライブラリ技術を開発いたしました。この技術をはじめとするさまざまな独自開発技術を応用することにより、モルフォシ

ス社は、ヒューマンヘルスケアにおいて、もっとも急成長している薬剤クラスの一つである治療用抗体分野のリーダーになっています。

他の製薬会社との提携により、モルフォシス社はがん、リウマチ、アルツハイマー病等の疾患を適応とする 90 種類を超える薬剤候補で構成されるパイプラインを構築しました。

モルフォシス社はドイツのフランクフルト証券取引所（証券コード：MOR）で上場しています。

詳細については、[www.morphosys.com](http://www.morphosys.com) をご覧ください。

HuCAL<sup>®</sup>、HuCAL GOLD<sup>®</sup>、HuCAL PLATINUM<sup>®</sup>、CysDisplay<sup>®</sup>、RapMAT<sup>®</sup>、arYla<sup>®</sup>、Ylanthia<sup>®</sup> および 100 billion high potentials<sup>®</sup>はモルフォシス社の登録商標です。